

大和市障害者自立支援センター ジョブトレーニングプログラム ～ミニフェスタに向けた取り組み～



大和市障害者自立支援センターの就労移行支援事業では、就職に向けた訓練の一環として、ジョブトレーニングプログラム（以下ジョブトレ）を実施しています。ジョブトレは一人一人が自分で考えて提案する機会を設けることや、仕事の流れを体験することで、社会に順応するために必要な力を身につけていくプログラムです。昨年の夏には、プログラムの中で夏祭り（大和すずらん祭り）を企画し、就労者や地域の方に楽しんでいただきました。

2-3面特集した『ミニフェスタ』でも、自立支援センターのブースは職員ではなく、ジョブトレのメンバーが中心となって企画・運営をしました。振り返りのプログラムに参加させていただき、取り組みの様子についてお話を聞きました。



Q. ハロウィンのカチューシャと帽子を作るワークショップを行っていましたが、どのようにして出店する内容を決めたのですか？

A. メンバーで案をたくさん出して、その中から現実的にできそうな物にしぼっていきました。最後は多数決で決めました。安全面への配慮や、年配の方から小さいお子さんまで幅広い年齢の方が来てくれることを考えて、誰でも参加しやすいものにしました。他のブースは物販やゲームの企画が中心であることを聞いて、ワークショップの形にしようと思いました。

Q. 準備にはどのくらいの期間がかかりましたか？

A. 9月の中旬から始め、週1回、計7回のジョブトレで準備をしました。最初にしっかりとスケジュールを組んで、スケジュールに沿って進めることができました。はっきりと役割分担をするのではなく、足りないところに全員が率先して動けたことでスケジュール通り進められたのではないかと思います。当日までに準備が間に合って一安心でした。

Q. 準備をする中で大変だったこと、工夫したことはありますか？

A. 普段やらない折り紙やパーツの切り抜きが、慣れなくて大変でした。帽子の型紙も自分たちで作りましたが、試作の中から形のいいものを選び、“のりしろをつけた方がいいのではないか”等のアイデアをその場で出し合いながら改良していきました。



話し合いの様子

Q. 実際に出店してみえたか？

A. ほかにハロウィンに関係した出し物をしているブースがなく、参加してくれたお客さんもニコニコしてくれていて、大成功だったのではないかと思います。楽しかったです。

A. 自分が参加した初めてのイベントで、接客も初めてだったので緊張しましたが、楽しくてやりがいを感じました。

A. 当日は風が出る見込みがあったのに、帽子が飛ばないようにする対策ができていなかったのが残念でした。自分は前もって気が付いていたので、もっと対策が必要だと主張できれば良かったと感じています。

A. 売れ残りが出てしまったのが残念でした。イベントで数の見直しを持つことの難しさを感じました。

A. しっかりと役割分担をしてお客さんに対応できたのが良かったです。作るのが結構難しくて、時間をかけてこだわって作っている方もいました。“じょうず、じょうず”等と声をかけると、お客さんにもっこり笑ってくれたりしてやりがいを感じました。

振り返りで話されていた内容から、メンバーひとり一人が主体的に準備に取り組んできた様子が伺えました。良かった点だけでなく、反省点や改善点についても率直な意見交換がなされていることも印象的でした。

最後に、サービス管理責任者の内藤職員からお話を聞きました。

Q. 『ミニフェスタ』に向けた利用者の皆さんの取り組みはいかがでしたか？

A. 最初から皆さんで企画し、スケジュールを立てて一生懸命準備をしていました。やりがいにつながる良い体験ができたのではないかと思います。他のブースは職員が運営しているところが多かった中で、利用者の皆さんが楽しそうに接客している様子を見て、お客さんも気になってたくさん来てくれたのではないかと思います。

Q. ジョブトレのプログラムを続けてきた中で、見られている成果について教えてください。

A. スケジュール管理や優先順位のつけ方、チームで協力して一つのことに取り組む経験などが、メンバーの自信や達成感につながっていると思います。

編集後記

新型コロナウイルスの影響により、これまで控えていた行事や事業所の活動も通常に戻りつつあります。今年は去年以上に、利用者の皆さんを中心とした法人の明るい話題をお届けできる事を願っております。
(編集：広報委員会)

広報 すずらん

発行日：2024年1月1日（創刊：1996年/平成8年）
発行元：社会福祉法人すずらんの会 理事長 松屋 直人 URL: <http://www.suzuran.or.jp>
所在地：〒252-0328 神奈川県相模原市南区麻溝台7-6-4 TEL: 042-745-8080
編集：広報委員会

第90号
2024年1月

年頭のご挨拶

理事長 松屋 直人

明けましておめでとうございます。旧年中は、当法人の運営に対しまして、皆様方から多大なご支援とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

まだまだ新型コロナの感染が続いており、今年も夏場や冬場に感染の拡大が予想されますが、昨年5月に第5類への変更もあり、今年からは、イベントを含め感染対策を確実に実施しながら、可能な限り通常の活動に移行していきたいと思っています。

法人の運営に関しましては、引き続きサービスの質の向上と、サービス提供の基盤となります建物等の再整備を行っていきたくと思っています。特に法人設立時から目的の「働くことへの支援」では、引き続き一般就労や工賃支給額実績のアップを目指して参ります。

4月から、3年に1回の報酬改定が行われます。円安等に伴う物価高騰への対応や他産業と比較して低く抑えられている人件費が少しでも改善されるような改定が行われることを期待しています。県営事業所でも、指定管理を止めて、給付費のみでの運営をしてもらいたいものです。

法人理念であります誰もが地域の中で普通の生活が営めるよう、皆様のご協力を仰ぎながら、職員とともども日々努力して参る所存ですので、引き続きご支援とご鞭撻のほど、宜しく申し上げます。

最後になりましたが、皆様方の益々のご活躍とご多幸をお祈り申し上げます。

ほっこり通信

当法人職員が業務の中でほっこりしたエピソードを紹介します♪
今回は『ワークセンターやまと』の平林職員のエピソードです♪

私が所属している『ワークセンターやまと』は、就労移行支援や就労継続支援B型のサービスを提供しており、『働く』事を目的とした方が利用をされています。

職員の役割として、企業から受注している作業で使用する資材や製品管理の他に、利用者の皆さんが作業に取り組みやすいよう、作業工程の組み立てや手順書の作成など、多岐に渡り準備をする事があります。当時、入職したばかりの私にとって、毎日が新しい経験ばかりで覚える事が沢山あり、日々が目まぐるしくあつという間に過ぎていきました。

そんな時期のある日、新規の受注作業を先輩職員が居ない中で、私が作業工程の組み立てをする事がありました。先輩から色々教わりながら準備をしていたはずでしたが、上手く作業の流れが作れず、利用者の方を混乱させてしまう結果となってしまいました。それでも作業中は普段通り振舞うよう意識して努めましたが、作業が終わり休憩時間に入る時には、自分の不甲斐なさに気持ちが落ち込んでいました。その時、アニメのキャラクターカードが大好きな利用者の方が私のところへ来て「カードのお話をしませんか。」と、声を掛けてくれました。私は直ぐに応じ、その方が趣味で集めたキャラクターカードについて会話をしました。するとその方は1枚のカードを指差し「このキャラクター平林さんに似ているよ。」と、私の名前を挙げました。カードには優しい顔をした女性のキャラクターが描かれていました。いつしか私の気持ちは不安から安心に変わり、自然と笑顔になっていました。



Q. フェスタは新型コロナの影響により、2019年度以来の開催となりました。開催に向けてイベント委員会での様な準備をされましたか。

昨年度末に、2023年度にはフェスタを再開させようという動きになりました。開催時期の検討で、すすらの会の秋の催しといえば10月最終週の土曜日が恒例となっていたこともあり2023年10月28日(土)で年間予定に組み込みました。新型コロナの勢いが収まりつつありましたが、感染者数を毎日発表している状況下、「新型コロナ以前のフェスタと同等の企画は難しい。その場で調理する模擬店や密になる状況は避けた方がよい。」という判断での企画の検討に入りました。そんな最中、5月に新型コロナが5類感染症へと変更となった直後に感染者が増加傾向にあるとの発表があり、法人としてフェスタ実施に向けての見直しをしました。年間予定で発表済みということで日程の変更はおこなわず、開催方法を午前と午後に入れ替え制、来場できる対象者を限定するという形で委員会は準備にはいりました。



ワークセンター・やまとを利用されている方の声

【Aさん】

『今までのフェスタには無かった体力測定をしたりカチューシャを作ったり、色々な事ができて楽しかったです。次はいつものフェスタに参加したいです。』

【Bさん】

『お菓子をすくうゲームでたくさん取れて楽しかったです。焼きそばや塩パンが美味しかったです。音楽も流れていて良かったと思います。』



待望のミニフェスタ開催

法人の秋の恒例行事となっていたフェスタすすらんでしたが、新型コロナの影響により4年ぶりに、『ミニフェスタ』と形を変えて開催をすることが出来ました。主催であるイベント委員会委員長の野中職員に、フェスタの開催に至った経緯、成果や今後の抱負について伺いました。



フィルインを利用されている方の声

【Aさん】

『懐かしい職員に会えて嬉しかった。屋上にバスケットボールのセットがあって、良かった。』

【Bさん】

『お菓子すくいが面白かった。ポウリングはストライクが取れなくてくやしかった。』



Q. 念願の開催という事もあり、利用者の皆さんの多くが笑顔で参加をされていたのが印象的でした。今年度のフェスタを終えてイベント委員会としての収穫はありましたか。また、来年度の開催に向けて抱負をお聞かせ下さい。

当初の予定から二転三転し、また制限がある中でのミニフェスタの開催ではありましたが、委員会のメンバーは即座に対応できるチームであると再確認できました。また利用者の皆さんも決められた時間枠の中で参加していただき、イベントを運営する側としてとても感謝しております。新型コロナによる中止の期間があり4年ぶりの開催となりましたが、新しい形でのリスタートとなり、今回の催しをベースに発展、進化した形で次回開催を考えていますのでご期待ください。また、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

Q. 今回は『フェスタすすらん』から『ミニフェスタ』と名称を変更して開催となりましたが、前回の内容との違いで工夫された事はありましたか。

事業計画の段階、また年間予定では‘フェスタすすらん’の名称でありましたが、新型コロナ前と同等のフェスタがおこなえないことから利用者の皆さんに混乱を招くことを懸念し、名称の変更に至りました。‘ミニフェスタ’だからこういう企画にしなければという工夫はありませんでしたが、人が密になる環境のステーションやバザー、調理が伴う模擬店を出さないことで、ブースとして各事業所単位のゲームコーナーとしていく内容になりました。ゲームの他に体力測定やハロウィンに因んだ帽子やカチューシャのワークショップもあり、それらも大いに盛り上がりを見せました。物販として法人内の自主生産品であるすすらの家の焼き菓子、グリーンハウスのスワンベーカー、ワークショップ・SUNのソーフラワーのブースを、そして大和市障害者自立支援センターからはスティッキーノート(付箋)とヘアゴムの販売をおこないました。

ワークショップ・フレンドを利用されている方の声

【Aさん】

『フリスビー、缶倒し、バスケのシュートのゲームをやって面白かった。お菓子が買って嬉しかった。ゲームは楽しかったからまたフェスタでやって欲しい。』

【Bさん】

『金券が買って、缶倒しのゲームも出来て楽しかった。色々買って楽しかったし、普段会えない事業所の職員とも長く話せて楽しかった。また行きたい。』

【Cさん】

『初めて行った。全体の雰囲気、職員も利用者の皆さんも楽しそうに笑顔がいっぱいで楽しかった。ゲームも沢山出来て良かった。2時間あっという間だった。また来年も行きたい。』

